

局所ユニタリ変換と $H^3(G, U(1))$

塩崎 謙

October 9, 2021

Abstract

Else=Nayak [1]の方法と, Levin=Gu模型 [2]における具体例を用いた計算のメモ.

1 Else=Nayakの方法

一般に, 非カイラルな可逆相 (SPT相) においては, 系の境界において低エネルギーのHilbert空間において実現する対称性演算子は, サイト毎のユニタリ変換の積

$$\bigotimes_x u_x(g) \quad (1)$$

の形式で書くことはできないが, 局所ユニタリ変換 (局所ハミルトニアン¹の有限時間発展演算子) の形で書くことができる, と信じられている. この点に注目して, [1]では, SPT相の分類が群コホモロジー $H^{d+1}(G, U(1))$ で与えられることを示している. 空間2次元の場合に[1]の方法をまとめたあと, [2]の具体例で確認する.

SPT相において, 2次元の円板の境界 $S^1 = \partial D^2$ の低エネルギーHilbert空間において射影された対称性演算子を $U_{S^1}(g \in G)$ とする. $U_{S^1}(g)$ に不定性は存在しない. 境界の S^1 の部分区間 $I = [a, b]$ を取り, I に $U_{S^1}(g)$ を制限し, $U_I(g)$ と書く.

- $U_{S^1}(g)$ は局所ユニタリ変換で書くことができるため, 適当に制限して, $U_I(g)$ を得ることはできる.
- 一方で, $U_I(g)$ は I の境界近傍にサポートを持つ局所ユニタリ変換だけの不定性が生じる.

境界 ∂I における不定性¹のため, 群構造はup to 境界 ∂I における局所ユニタリ変換, で成立する.

$$U_I(g_1)U_I(g_2) = \Omega_{\partial I}(g_1, g_2)U_I(g_1g_2). \quad (2)$$

ここで, 境界 ∂I 近傍にサポートを持つ局所ユニタリ変換を $\Omega_{\partial I}(g_1, g_2)$ と書いた.

- よって, 局所ユニタリ変換 $U_{S^1}(g)$ の分類問題は, 局所ユニタリ変換の”障害” $\Omega_{\partial I}(g_1, g_2)$ の分類問題に帰着した.

$\Omega_{\partial I}$ は任意でなく, $(U_I(g_1)U_I(g_2))U_I(g_3) = U_I(g_1)(U_I(g_2)U_I(g_3))$ より以下の制限がある.

$$\Omega_{\partial I}(g_1, g_2)\Omega_{\partial I}(g_1g_2, g_3) = U_I(g_1)\Omega_{\partial I}(g_2, g_3)\Omega_{\partial I}(g_1, g_2g_3). \quad (3)$$

¹きちんと定義すべき

ここで、左作用

$$U_I(g_1)\Omega_{\partial I}(g_2, g_3) = U_I(g_1)\Omega_{\partial I}(g_2, g_3)U_I(g_1)^{-1} \quad (4)$$

を導入した。さらに、 $\Omega_{\partial I}(g_1, g_2)$ を片方の境界 a に制限し、 a 近傍にサポートを持つ局所ユニタリ変換を $\Omega_a(g_1, g_2)$ と書く。 $U(1)$ 位相の不定性が生じるため、 $\omega(g_1, g_2, g_3)$ を $U(1)$ 位相として、

$$\Omega_a(g_1, g_2)\Omega_a(g_1g_2, g_3) = \omega(g_1, g_2, g_3)U_I(g_1)\Omega_a(g_2, g_3)\Omega_a(g_1, g_2g_3) \quad (5)$$

と書くことができる。 $\omega(g_1, g_2, g_3)$ はコサイクル条件

$$\delta\omega = 0 \quad (6)$$

を満たすことが示される。

2 Levin-Gu模型

$\mathbb{Z}_2 = \{e, \sigma\}$ と書く。 Levin-Gu模型 [2]において、1次元の端の \mathbb{Z}_2 対称性変換は、

$$U_{S^1}(e) = \text{Id}, \quad (7)$$

$$U_{S^1}(\sigma) = \prod_j \sigma_j^x \prod_j e^{\frac{\pi i}{2} \frac{1-\sigma_j^z \sigma_{j+1}^z}{2}} \quad (8)$$

で与えられる。ここで、2番目の因子は、有限系においては不定性を持つことに注意する。例えば、閉じた鎖においては

$$\prod_j e^{\frac{\pi i}{2} \frac{1-\sigma_j^z \sigma_{j+1}^z}{2}} = \prod_j e^{\pi i \frac{1+\sigma_j^z}{2} \frac{1-\sigma_{j+1}^z}{2}} \quad (9)$$

は同じ局所ユニタリを与えるが、区間 $I = [1, L]$ においては両者に違いが生じる。さて、有限区間 $I = [1, L]$ における局所ユニタリ変換を

$$U_I(e) = \text{Id}, \quad (10)$$

$$U_I(\sigma) = \prod_{j=1}^L \sigma_j^x \prod_{j=1}^{L-1} e^{\frac{\pi i}{2} \frac{1-\sigma_j^z \sigma_{j+1}^z}{2}} \quad (11)$$

としてみよう。すると、

$$U_I(\sigma)^2 = \prod_{j=1}^L \sigma_j^x \prod_{j=1}^{L-1} e^{\frac{\pi i}{2} \frac{1-\sigma_j^z \sigma_{j+1}^z}{2}} \prod_{j=1}^L \sigma_j^x \prod_{j=1}^{L-1} e^{\frac{\pi i}{2} \frac{1-\sigma_j^z \sigma_{j+1}^z}{2}} \quad (12)$$

$$= \prod_{j=1}^{L-1} (-1)^{\frac{1-\sigma_j^z \sigma_{j+1}^z}{2}} \quad (13)$$

$$= \prod_{j=1}^{L-1} \sigma_j^z \sigma_{j+1}^z \quad (14)$$

$$= \sigma_1^z \sigma_L^z \quad (15)$$

となる。よって、

$$\Omega_{\partial I}(g_1, g_2) = \begin{cases} \sigma_1^z \sigma_L^z & (g_1 = g_2 = \sigma), \\ \text{Id} & (\text{else}), \end{cases} \quad (16)$$

を得る.

$$U_I(\sigma)\Omega_{\partial I}(\sigma, \sigma) = \left(\prod_{j=1}^L \sigma_j^x \prod_{j=1}^{L-1} e^{\frac{\pi i}{2} \frac{1-\sigma_j^z \sigma_{j+1}^z}{2}}\right)(\sigma_1^z \sigma_L^z) \left(\prod_{j=1}^L \sigma_j^x \prod_{j=1}^{L-1} e^{\frac{\pi i}{2} \frac{1-\sigma_j^z \sigma_{j+1}^z}{2}}\right)^{-1} = (-\sigma_1^z)(-\sigma_L^z) \quad (17)$$

に注意. 区間 I の左端への制限は

$$\Omega_a(g_1, g_2) = \begin{cases} \sigma_1^z & (g_1 = g_2 = \sigma), \\ \mathbf{1} & (\text{else}), \end{cases} \quad (18)$$

と取ることができる. このとき, 唯一の非自明な左作用

$$U_I(\sigma)\Omega_a(\sigma, \sigma) = U_I(\sigma)\Omega_a(\sigma, \sigma)U_I(\sigma)^{-1} \quad (19)$$

$$= \left(\prod_{j=1}^L \sigma_j^x \prod_{j=1}^{L-1} e^{\frac{\pi i}{2} \frac{1-\sigma_j^z \sigma_{j+1}^z}{2}}\right)(\sigma_1^z) \left(\prod_{j=1}^L \sigma_j^x \prod_{j=1}^{L-1} e^{\frac{\pi i}{2} \frac{1-\sigma_j^z \sigma_{j+1}^z}{2}}\right)^{-1} \quad (20)$$

$$= -\sigma_1^z \quad (21)$$

に注意すると, 3コサイクル ω において1でないのは, $(g_1, g_2, g_3) = (\sigma, \sigma, \sigma)$ の組み合わせのみであることがわかるので,

$$\omega(g_1, g_2, g_3) = \begin{cases} -1 & (g_1 = g_2 = g_3 = \sigma), \\ 1 & (\text{else}), \end{cases} \quad (22)$$

がわかる. このような ω は, $H^3(\mathbb{Z}_2, U(1))$ が非自明な群コサイクルであることが知られている.

別の $U_I(\sigma)$ の選び方についても確認しておく.

$$\tilde{U}_I(\sigma) = \prod_{j=1}^L \sigma_j^x \prod_{j=1}^{L-1} e^{\pi i \frac{1+\sigma_j^z}{2} \frac{1-\sigma_{j+1}^z}{2}} \quad (23)$$

$$(24)$$

とすると, $\tilde{U}_I(\sigma)$ と $U_I(\sigma)$ は I の端での局所ユニタリ変換だけ異なる. 実際,

$$\tilde{U}_I(\sigma) = \prod_{j=1}^L \sigma_j^x (i\sigma_1^z) \left(\prod_{j=1}^{L-1} e^{\frac{\pi i}{2} \frac{1-\sigma_j^z \sigma_{j+1}^z}{2}}\right) (-i\sigma_L^z) \quad (25)$$

$$= \sigma_1^z U_I(\sigma) \sigma_L^z \quad (26)$$

である. すると,

$$\tilde{U}_I(\sigma)^2 = (\sigma_1^z U_I(\sigma) \sigma_L^z) (\sigma_1^z U_I(\sigma) \sigma_L^z) = U_I(\sigma)^2 \quad (27)$$

より, ω は変化しない.

さて

$$\Omega_a(\sigma, \sigma)\Omega_a(e, \sigma) = -^{U_I(\sigma)}\Omega_a(\sigma, \sigma)\Omega_a(\sigma, e). \quad (28)$$

について考えておこう. この関係式の元は, 区間 I における \mathbb{Z}_2 対称性変換 $U_I(\sigma)U_I(\sigma)U_I(\sigma)$ を分解する順番依存性だった.

$$(U_I(\sigma)U_I(\sigma))U_I(\sigma) = \Omega_{\partial I}(\sigma, \sigma)U_I(e)U_I(\sigma) = \Omega_{\partial I}(\sigma, \sigma)\Omega_a(e, \sigma)U_I(\sigma), \quad (29)$$

$$U_I(\sigma)(U_I(\sigma)U_I(\sigma)) = U_I(\sigma)\Omega_{\partial I}(\sigma, \sigma)U_I(e) = ^{U_I(\sigma)}\Omega_{\partial I}(\sigma, \sigma)\Omega_a(\sigma, e)U_I(\sigma). \quad (30)$$

絵で書くと, 図のようになる.

$$\begin{aligned}
& \overline{U_I(\alpha)} \overline{U_I(\alpha)} = \overline{D_{\text{box}}(\sigma, \sigma)} \\
& \overline{U_I(\sigma)} \overline{U_I(\sigma)} = (-1) \overline{U_I(\sigma)}
\end{aligned}$$

Figure 1

References

- [1] Dominic V. Else, Chetan Nayak, *Classifying symmetry-protected topological phases through the anomalous action of the symmetry on the edge*, arXiv:1409.5436.
- [2] Michael Levin, Zheng-Cheng Gu, *Braiding statistics approach to symmetry-protected topological phases*, arXiv:1202.3120.